

聴覚障害のある生徒の将来的な自立を見据えた情報保障の在り方

～UDトークの導入～

情報保障、自立活動、環境整備

江戸川区立鹿本中学校難聴学級

〒133-0043
東京都江戸川区松本1丁目36番1号

<http://edogawa.schoolweb.ne.jp/shikamoto-i>

1. 研究の背景

東京都内には難聴学級の設置されている中学校が13校ある。すべての学級が通級制であり、校内通級（校内に在籍する難聴生徒が通級）や校外通級（校外に在籍する難聴生徒が放課後などに通級）、あるいは巡回指導（難聴生徒の在籍校へ難聴学級担任が出向いて指導）の方法で、自立活動や教科の補充指導を行っている。難聴の生徒は通常の学級に在籍し、生徒個々の実態に応じて週あたり数時間、個別や少人数の形態で難聴学級担任による指導を受けている。在籍する学級での生活が中心であり、補聴器や人工内耳を装用して聴覚活用をしながら情報収集に努めているが、それだけでは確かな情報収集は困難である。聴覚障害の程度は生徒一人ひとりさまざまであり、軽度の生徒もいれば、重度の難聴の生徒もいる。障害のある者と障害のない者が共に学ぶ「インクルーシブ教育」システムの構築が進められている昨今、必要要件となる「合理的配慮」の提供が求められている。月1程度に開催される都内中学校難聴学級の合同の研究会（東京都難聴言語教育研究会）の場で話題となる「情報保障」に関する情報は、日進月歩である。

本校難聴学級は情報保障として、パソコン要約筆記を主に行っている。大きな学校行事（入学式や卒業式等）では、外部の要約筆記専門家に依頼しスクリーン字幕による要約筆記を行っている。普段の朝礼や集会、在籍学級での一部の授業においては、難聴学級担任が生徒の手元のPSPにパソコン要約筆記で文字情報を送っている。これらの情報保障のない環境では、難聴の生徒が在籍学級での活動や授業をすべて理解して参加することは非常に困難である。情報保障があったとしても、100%の情報提供、情報収集は困難で限界がある。少しでもより多くの情報を提供し、どの生徒にも平等な学習環境を整えていくことが必要なのである。

2. 研究の目的

聴覚に障害のある生徒への情報保障は不可欠である。難聴学級のある学校に在籍していれば、情報保障の環境は整っているが、整備された環境にいることの大きな課題は、自ら意識的に環境を作り出していこうとする力が育ちにくいことである。支援を受けるためには、支援者への依頼をしなければならない。そのときに、自ら情報保障の必要性を認識し、支援者への依頼には円滑なコミュニケーション能力が必要となる。用意された環境の中では、情報保障がいつも提供されるものという錯覚に陥り、それが提供されない環境下では不安や不満のみが残ってしまいかねない。将来的には福祉の申請を自ら出向いて行わなければならない。

支援を受ける側としての意識も高くもっていなければならない。難聴学級や難聴学級担任の存在が彼らの自立を阻む要因になってしまうとしたら、本末転倒である。難聴の生徒がTPOに応じて、また、自分に合った方法で、「情報保障」の提供を積極的に受け、「情報保障」の在り方について考えてほしいと願い、今回の研究を設定した。

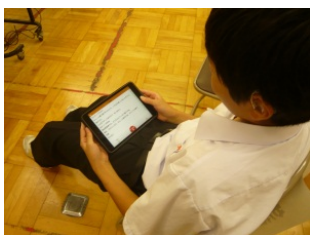
3. 研究の方法

情報保障には様々なツールがあるが、新しく開発された「UDトーク」を導入する。この「UDトーク」は音声文字化専用アプリである。マイクを通じて話者の音声がリアルタイムでアイ・パッドに文字化される。授業で実際に使い、生徒に効果について尋ねたり活用について考えさせたりする。UDトーク開発者である Shamrock Records, Inc. 代表取締役の青木秀仁氏の協力のもと、定期的な研修にて情報保障の在り方について考察していった。



4. 研究の内容・経過

6月に機材の納品があり、取り扱いについて担当者より説明を受けた。7月には表示方法について説明を受け、見やすい画面の調整、その他の機能等について確認した。その後、難聴学級の中で行った講演会の場を借りて、難聴の生徒たちに機器の紹介を行った。新しい情報保障ツールにどの生徒も関心をもつことができたが、情報をキャッチして理解しようというところまでは至らず、音声文字化に目が向き、誤変換に余計に反応してしまうなど、活用には慣れが必要であることが感じられた。セッティングにも時間がかかったため、支援を受ける側だけではなく、支援をする側の慣れにも時間を要すると感じた。



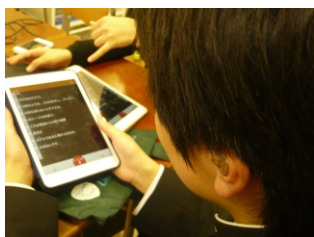
9月には難聴学級内において通級指導で実際に活用してみた。生徒は、聴覚を活用しながら、アイ・パッドに表示される文字情報を見てより確かな情報を得ようとしていた。難聴学級担任が誤変換を修正し、文字情報を提供したため大きな変換ミスはなかったが、すべての文字情報を正しく提供することは困難である。間違っただけの情報（例えば「なぜ後悔したか」が「なぜ公開したか」と表示されるなど）を、文脈から間違いであることに気付いて生徒自身が頭の中で文字の修正をできればよいのだが、聞き慣れない学習用語などは情報の間違いに気づかないまま表示された文字を覚えてしまうおそれもある。支援を受ける側の、言語力の強化も大きな課題であると痛感させられた。



普段の、難聴学級担任によるパソコン要約筆記と比べたとき、「UDトークの方が情報量が圧倒的に多い」のは確かで、変換がより正確になれば非常に有効的なツールである。難聴学級担任による要約筆記では、生徒の実態に応じて分かりやすく要約することもあるが、情報提供として果たしてそれが正しい提供の仕方であるかどうかといったところでは、疑問があり迷うところでもある。

UDトークを、個別指導を行っている同じ生徒に何度か試したところ、アイ・パッドばかりに目が行くよ

うなことも次第になくなり、必要に応じて文字情報を確認するようになってきた。どの生徒も共通して関心が高く、健聴の生徒にも紹介してみたが「聞こえていても聞き間違いや聞き漏らしの不安はあるから、文字があればさらに内容が頭に残りやすい」と評価は高かった。



支援する側にとっては、アイ・パッドと有線でつながったマイクを手にもって授業を行うことが授業を進めていく中でやりにくさがあると感じられたが、無線のヘッドセットも試し、さらに無線の首かけマイクが開発されたため、支援する側の抵抗感が緩和されると思われる。UDトークの普及に伴い、ネットが混み合っつながりにくくなったり、レスポンスが遅くなったりといった不具合が発生することもある。しかし、難聴生徒がこの先、学校や職場でも活用していける非常に有効なツールであることは間違いない。開発者による定期的な研修において、機能のバージョンアップ等もこまめに教えていただけるため、今後も定期的な研修の機会を設けていきたい。

5. 研究の成果

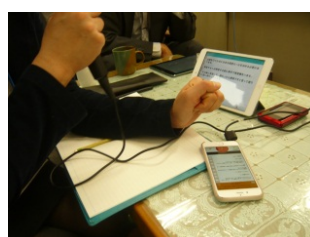
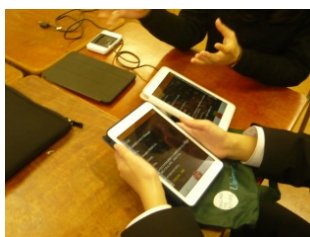
生徒たちはUDトークを本学級での紹介により初めて目にした。どの生徒からも「便利だ」「将来的にも利用してみたい」という声があがった。リアルタイムに表示される文字量の多さに驚きを見せていた。新しい機器に新鮮さを感じ、スマホ世代の生徒たちにはいろいろな機能をすぐに使いこなす能力があり、アイ・パッドをあれこれ試し、文字を大きくしたり手書き機能を使ったりもしていた。新しい情報機器にも抵抗なくスムーズに活用しようとする姿勢が見られる。学校公開等でUDトークの紹介パンフレットを目にした見学者からは、興味を示され質問を受けることもあった。



「情報保障」にどちらかといえば受け身な姿勢の難聴生徒たちが、「情報保障」に関心を持ち、必要性を改めて感じる事ができたことは、大きな収穫である。今後さらに活用していく中で、積極的に「情報保障」を受け、情報収集力を身に付け自立していけることを望んでいる。

6. 今後の課題・展望

在籍学級での授業で、実際に難聴生徒が自分から授業者に依頼し、UDトークを活用してよりよい情報提供を受けたり、将来的な活用に向けその他にもあるいろいろな情報保障の在り方を考えていったりするには、まだ時間がかかる。ネット環境の整備や、パソコンへの授業用語のインプット、通信費の確保といったハード面での条件整備、支援される側の意識や支援する側の協力、また、まわりへの理解などといったソフト面の条件整備、あらゆるところで体制を充実させ、少しずつ条件をクリアさせていながら、継続的な活用へつなげられるようにしたいと考えている。在籍学級での授業で活用していくことが日常的になれば、聴覚障害



のある生徒がもっと情報提供を受けられ、学習の楽しさに気付き、学習意欲の向上も望めるであろう。もっと情報を知りたい、分かってほしい、という気持ちが、将来的な自立へつなげられていけると思われる。

7. おわりに

平成28年4月より障害者差別解消法が施行される。障害の有無に関わらず、誰もが互いに尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、環境整備をしていくことは、難聴学級担任の重要な任務の一つである。聴覚障害のある生徒にとって、情報保障は必須であり、ICT機器の有効性は大きい。この度の研究助成により、研究を進める中で、難聴の生徒たちにより豊かな環境を提供できたこと、何より子どもたち自身が情報保障の在り方について意識し、視覚情報の有用性を改めて認識する機会となったことが大変有意義であった。研究に際し、多方面の方々よりご支援いただいたことに心より感謝を申し上げたい。

< 参考文献 >

- ・文部科学省「インクルーシブ教育構築事業」(2014)
- ・東京都教育委員会「児童・生徒一人一人の適切な就学のために一就学相談の手引き」(2015)
- ・日本障害フォーラム「障害者差別解消法って何？」(2013)
- ・ジアース教育新社「聴覚障害」春号(2015)